

南アフリカ リンポポ州南部の柑橘類産地で寒波の被害

[FreshPlaza](#) 2024年7月19日

グローブラスダール(リンポポ州)に本拠を置くスフーンビーランドフット社の営業販売担当シニアマネージャーであるヘルト・アプトン氏は、先週の氷点下の寒波の影響は甚大なものになるだろうと言う。柑橘類生産者らは今も果樹園に出ては果実を切って被害の程度を計測しているが、レモンやオレンジの園地全体が枯れるほどの低温被害を受けたことによる精神的な影響は、彼らにとって大きな打撃となっている。

アプトン氏は、「場所によってはマイナス8℃が5時間近く続き、果樹が枯れてしまった。果実を全部失った生産者もいる。それらの果樹はまだ樹齢6、7年だったものもあるようだが、もはや掘り起こすしかなく、過去5、6年間にその果樹園に費やしたすべての投資に加えて、将来の見通しと収入を失ってしまった」と話す。

同社では、今後2週間は何も出荷せず、霜で傷んだオレンジの落果を待つことにした。ソフト柑橘類は果実の内部の水分が減って浮き皮を生じても、外からは完璧な果実に見えるため、冷害の兆候を見分けるのが一層難しい。

同氏は、当該地域及びより広くリンポポ州全体の被害の程度はまだ明らかではないと強調している。誰もが果樹園に出て、何を失い、何が残ったかを目の当たりにしている。

柑橘類生産者協会は本日(19日)、センウェス地域(マーブルホールとグローブラスダール)の寒波により、この地域のネーブルオレンジの収穫見込みは60万箱、バレンシアオレンジは100万箱減少したと発表した。

さらなる輸出量の削減は避けられない

アプトン氏は、「今後、北半球からの柑橘類果実の供給量が少なくなってくる。南半球からの供給があるものの、南アフリカは今年これまでに既に予想輸出量を1,200万箱(15kg/箱)削減しており、先週の低温を受けて間違いなく再び削減されるだろう。柑橘類の被害と収入の損失が査定されるとともに、予定されていた梱包、肥料・農薬、労働力の費用もあり、今後数週間で柑橘類に関して大きな経済的損失が見えてくる」と言う。

販売計画はすべて混乱に陥り、同氏は南アフリカが残りの出荷シーズン中に市場にどれだけ供給できるか(またはできないか)について多くの問題を予想している。

ダーバン港は、ゲベハ(英名ポートエリザベス)港やケープタウン港とは異なり順調に運営されており、これは柑橘類の出荷量が既に減少していることと、マプト港(モザンビーク)経由の輸出がダーバン港の負担を軽減した結果であると同氏は指摘する。

オレンジ果汁の価格が高騰していることは救いであり、スフーンビーランドフット社の自社の搾汁施設は、量的な損失の多くを価格の上昇で吸収することができるだろう。

食料問題が起こる

寒波の被害は農場の地形や場所によって異なり、北はデンドロンやビボなどの主要なジャガイモ産地にまで及び、そこでは収穫期に達していないジャガイモ畑全体が回復できないほど凍りつき、何千トンもの損失が生じている。当初は、生産者が残された作物の中からできる限りのものを回収するため価格が下がるが、その後、多くの南アフリカの人々にとって手の届かないレベルに高騰すると見られる。

アプトン氏は、「多くの作物が枯れてしまい、食料問題が発生するだろう。ここで起こったことは経済的な影響を及ぼし、生産者や、(寒波のために)早く家に帰され、1カ月分少ない給料しか払ってもらえない人々に、社会的及び心理的な影響を与えるだろう。この寒波によって、あらゆる形での社会経済的問題がもたらされる」と話す。

同氏は、恐らく売りに出される柑橘類農園が増え、南アフリカの食料安全保障が徐々に損なわれるだろうと言う。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)